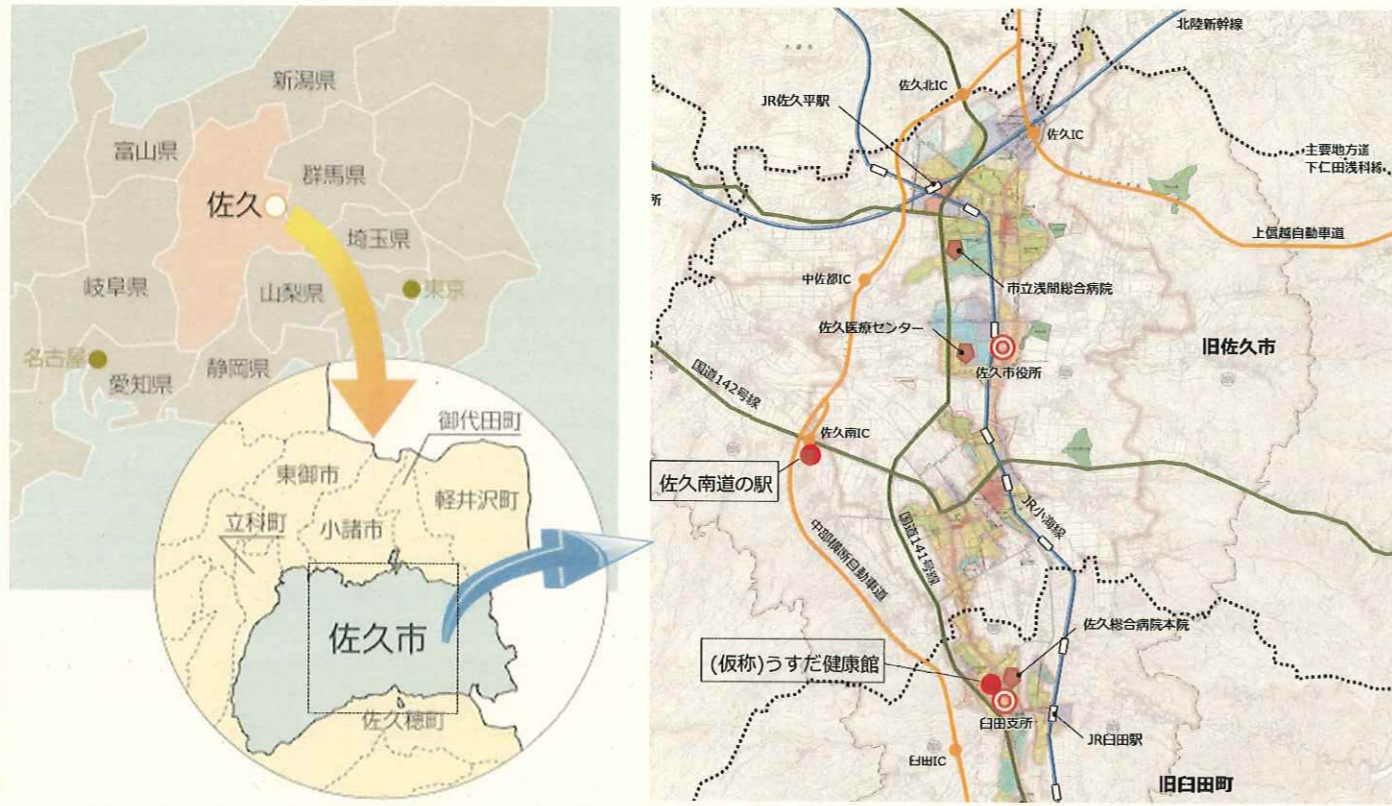


佐久市の概要

佐久市の紹介



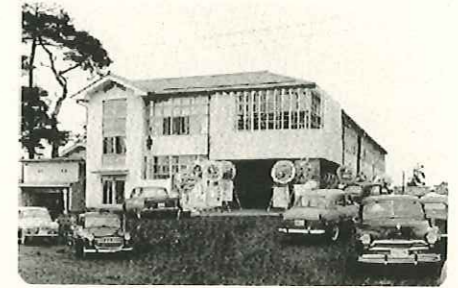
- 1 市制施行 平成 17 年 4 月 1 日 平成の大合併により「新佐久市」が誕生
(旧佐久市、旧臼田町、旧浅科村、旧望月町)
- 2 人口世帯数 人口：100,085 人 世帯数：40,010 世帯 (H26.10.1 現在)
- 3 地勢・気候 本州のほぼ中央、長野県の東部にあって、県下 4 つの平らに数えられる佐久平の中央に位置し、四方を山々に囲まれた平均標高 700m の美しい高原都市
気候は、平均気温約 11℃で、年間降水量は約 1,000 mm と比較的少なく、冷涼乾燥の内陸性気候
日照時間は、年間 2,000 時間前後と、全国平均(約 1,700 時間)を大きく上回っており、全国トップクラスの晴天率の高い地域
- 4 特徴 全国トップレベルの地域医療先進エリア
平均寿命が長い 全国 1,898 市区町村中、男性 15 位、女性 19 位
男性：81.7 歳 女性：88.0 歳 (H22 年「市区町村別平均寿命」)
高速交通網の要衝
北陸新幹線佐久平駅 (東京駅まで最速 73 分)
上信越自動車道 IC 市内 2 箇所 (練馬 IC から約 150 km)
中部横断自動車道 IC 市内 4 箇所
佐久平駅周辺を中心に商業施設が集積
吸引力係数県内第 1 位(215.6%)、商圏人口県内第 3 位(249,611 人)
- 5 産業 工業 生産用機械、輸送用機械、食料品、電子部品、電子機器
農業 米、野菜、花き、畜産
- 6 主要施策 「世界最高健康都市」の構築
目的：市民が「私は健康です。」「私は幸せです。」「佐久市は住みやすいまちです。」を実感できること。

～世界最高健康都市構想の実現に向けて～

「人の健康づくり」「まちの健康づくり」「きずな健康づくり」「広がる健康づくり」
「ひと・まち・きずな・交流」が健やかであるよう様々な分野が連携して施策を展開

1 佐久市における保健医療の土壌

- (1) 【旧臼田町】長野県厚生連佐久総合病院の活動
 - 故若月俊一名誉院長の功績
 - ・「農民とともに」の精神で地域住民の中に積極的に入り込む
 - ・旧八千穂村で全村健康管理を開始し、現在の健診のモデルとなる
 - ・医療の民主化の推進「誰でも、どこでも、いつでも、人間らしい治療が受けられること」
- (2) 【旧佐久市】佐久市立国保浅間総合病院の活動
 - 故吉澤國雄名誉院長の功績
 - ・「減塩活動」「ひと部屋暖房運動」など脳卒中死亡率の低下に寄与
 - ・集団検診で栄養改善活動の推進役となる、保健指導員制度の導入
 - ・糖尿病インシュリンの自己注射の保険適用の実現に尽力



2 施策実現に向けた取り組みの一部

- (1) 「佐久市新しい保健」の推進 (9 項目)
 - ・生涯を通じた健康のすすめ
 - ・食育の推進
 - ・小児期からの生活習慣病対策の推進 など
- (2) 佐久総合病院再構築への支援
 - ・急性期医療、専門医療、3 次救急等医療等を担う「佐久医療センター」と一般診療 2 次救急を担う「臼田本院」に分割再構築
- (3) 臼田まちづくり事業の推進
 - ・臼田地区で培われてきた保健、医療、福祉をより一層発展、充実させる核施設となる「(仮称)うすだ健康館」を整備
- (4) 佐久南インターチェンジ周辺の整備
 - ・「健康長寿」をキーワードとする「まちづくりのための拠点」と「地域振興(農業)のための拠点」を整備



3 その他交流人口の創出に向けた取り組み

- (1) 佐久地域定住自立圏の中心市として、圏域市町村の連携と協力による定住人口の確保を図る。
- (2) 定住促進策として空き家バンク事業や県、JR 東日本と連携による移住、交流促進事業を実施
*佐久市は、空き家バンク物件成約数ランキング 全国 1 位 (㈱宝島社「いなか暮らしの本」より)

